岡山畜産便り 1961.10

対 談

草で伸びる畜産

岡山県下では、さる９月４日から 10 日まで１週間「草の週間」ということで、いろいろと行事が行なわれました。しかし一般的にはまだまだ認識が低いようです。草の問題はやはり長い目で、大いにこういった運動を続けていく必要があるものと考えられます。

「草の週間」の最終日に、県の同報通信で行なわれた〝草の対談〟には、これから草地を造っていく場合、参考として取り入れていかなければならない重要なことがかなり含まれていましたので、ここに再録紹介することにしました。

まず草作りの指導から

蔵知　どうでしょう、だいぶん出来ましたでしょうね、草地の改良は

難波　わたしの方は、現在７月１日から農協合併をいたしまして、賀陽町全域ですと 141 ヘクタールを草地化しておるわけです。でなかなか一般的に草地という問題につきましては、認識を徹底させるということが困難です。と申しますのはやはり草というものの考え方がどんなものであるかということが問題でして、今までやってきました１つの考え方というものは、昭和 29 年頃から、乳牛導入を一斉に開始するその際、まず第１に草だということを話してきたわけでございます。何といいましても、武士の商法と申しましょうか、なれないものが酪農というかなり高級な１つの企業をやって行きます上に、草でなければどうしてもこれを技術的にカバーして行くことができない。という考え方で、とにかく、草を作らなければ乳牛の飼育というものは技術的に不可能なんだということ。草の内容、あるい酪農の問題点を草によって技術的にどういうふうにカバーして行くかということを皆んなに話しつつ現在までに至っておるわけです。

蔵知　いままで草といえば雑草という形でしかなかったわけですし、皆さん達も草を取るということで非常に苦労されておりました。草を作るなどということは、それまでに相当御苦労があったことと思うんです。

難波　私も７・８年乳牛を飼っているんですが、いろいろと牛の本を片端から読んできましたわけですが、何分素人なものですから、色々技術指導者の方から教わり飼料の問題等研究すればするほどむずかしく何なってきます。そういう点で、といたしましても完全な飼料を牛に与えて行く、いわゆるミネラル・カロチンをどうして安価にやって行くかと考えますと、これはもう草以外にありません。これで牛の健康をはかるということが、何といいましても酪農を進めて行きます上に、また素人でも飼える方法として最もよい、こういうことを一番に考えました。

蔵知　今までの酪農というものが、牛乳屋さんのまねをして、濃厚飼料をもって行けばすぐに牛が飼えるというような考え方がありましたからね。そういう面で酪農が賀陽町のような、ああいう地帯へ入って、草作りをやりながら酪農をやって行くという形が出来てきたことは、岡山県の酪農の将来にとって非常に有難いことだと思うんです。

対　談　者

賀陽町農業協同組合　副組合長　難波　典雄

岡 山 県 農 林 部　畜産課長　蔵地　　毅

〔紹　介〕

難波典雄氏は、上房郡賀陽町旧吉川農協組合長で、現在 120 アール（田 100、畑 20）の耕地と、200 アールの牧野に６頭の乳牛（ホルスタイン）を飼育、牧野改良をすすめ、牧草による酪農経営を率先して行なっている同地域の優れた酪農指導者です。

難波　そういう考え方でいままでやってみまして―おはずかしいような話もありましたのですが、何といいましても草造りということは、大変な仕事であります。

蔵知　今までは草を作るといいましても、起こして種を播いてというところまではやってくれているのですが、そこから先の管理ですね、それが大変なんだろうと思うのですが、

難波　少なくとも草作りの技術というものは、５年位農家はかかるのじゃないでしょうか。

検討を要する導入牧草の種類

蔵知　それから持っていく草の種類等につきましても相当に研究しなければならない問題だろうと思うのですけれども―。

いままでどういうものをお使いになりましたか。

難波　大体オーチャードとイタリアンライグラス、ペレニアルライグラス、それにクローバーとしてレッドとラジノというところです。

蔵知　やはりそういうものをお入れになってイネ科牧草が負けるということはありませんか。

難波　イネ科の方がやはり押され勝ちですね。ラジノが非常に強いです。

蔵知　牛の嗜好からいうとどうなんでしょう。

難波　やはりイネ科の方がようございますね。

蔵知　そうするとこれからもっと考えなければならないのは、イネ科牧草をどうしてもっと入れて行くかということも考えなきゃあいかんですね。

いままでの例をみますと、当初は７対３位の割合でマメ科が入っておりましても、だんだんマメ科に押されてしまって、最後にはラジノクローバーばかり残るという形になりますんでね、利用面からいうと、もっとイネ科牧草を入れていかなければいけないと思うんですが。

難波　実際作ってみまして、いろいろ混播の方法とかございますが、私はある程度品種の専門的なあるいは選択的な形で牧野を構成していく、やはり土地の状況によって―土地の改良は必要でありますが、一時に改良を行なうことはむずかしい―非常にラジノに適する、またレッドに適する、オーチャードに適するというといろいろありますので、一応ここにはどれが適するかということ試験する必要があるのではないかと思います。

蔵知　私はこういう例を聞いているんですけれどね、ラジノが一面はびこってくるとラジノに押されてしまう、そこで秋の９月頃に約１米巾に小型の耕転機を入れて、そこへイタリアンを入れて行く、そうしますとイタリアンは来年の春にはうんと伸びる、それを刈って行くと、ラジノの方もある程度抑制されるし、一方ではイタリアンができるというふうになって、非常に調子がよいという例も聞いているんですが、これは１ぺんやってみる必要があるんじゃないかと思います。

まだまだ伸びる余裕のある県中北部

難波　それからいろいろ県の力添えをいただいて牧野改良をやっているわけなんですが、問題は１時に１団地何町歩ということになりますと、―これは国の方針でありますから仕方ありませんが―これを１年に１度これを行ないますと、何年かの後に１度また更新しなければいけない。こういう問題が起きましてね、私は農家の現在の畜産の状態、まあいろいろ規模は違いますが、ある程度―２反あるいは３反程度ずつ毎年造って何町歩にもしていくということにしますと、年々更新します上において非常に楽です。それからその土地に対して種類の適応性がどうであるとか、判断が楽になると思うのです。

蔵知　われわれの方の考え方としましては、将来はやはり採草というよりも放牧を主体にして考えていくということの方がより効果が大きいというふうな気がするんですね。御承知のようにいま自立農家の経営ということを盛んに云っていますが、そうなるとやはり牛の１戸当りの頭数が５～６頭あるいは10頭位になってくると思われます。そうするとそうした人達が５軒なり６軒なり集まっていけば５・60頭の頭数になってくる。そうなるとはやり採

草に重点を置くか、放牧に重点を置くかという問題がでてくると思うんです。そうなりますと或る程度の面積も必要だと考えられるんですが、そういう点はどうでしょうか。

難波　かなり酪農というものは規模が大きくなってこなければけないと思いますが、それまでの大きくなるまでの問題ですね。これをどういうふうに処置して行くかということですね。最近では協業ということが云われておりますが、なる程３頭ずつ牛を持っている人が 10 人寄って 30 頭の牛を１所に寄せて飼う。実際に飼えるかということになりますと、ちょっと無理じゃないかと思います。

蔵知　私はね共同経営も必要だろう、しかしその前にまずやるのは何かということになると、これはやはり個々の農家の経営をもつとがっちりやって行く、そしてできれば共同作業ですね。出荷なり牧野改良なりといったような線を一応やってみる。そしてそのつぎの段階として共同経営というものもでてくるんじゃないか、現在の段階じゃまず如何にして自分の経営をうまくやるかということ、この点をもっと突っこんで行かなければならないという気もするんですが。

難波　プロ野球なんかで云うように、やはり酪農の 10 年選手ができてきませんと、大きな経営はなかなかむつかしいということですね。

蔵知　そういう点からいいますとやはりお宅の方は土地にも恵まれているんですから、これをうんと活用することになればどうでしょう、まだまだ牛が入っても差しつかえないという気がしますが―。

難波　この頃私の顔を見れば乳牛に見えると組合員が云いますんですが、私の考えからいいますと、岡山県の中北部では、畜産が農業経営の 50％以上あるいは 70％･100％でもいいんですが、それ以上を占めるような農業形態が理想じゃないかと思っておりますんですが―。

必要な灌水と庇蔭

蔵知　そうなりますと、草の問題にもう少しかえりたいと思うんですけれども、これから実際に牧野の管理をなさったりですね。採草地の管理をなさったりするわけなんですが、そういう点でとくにやってみたいという点、あるいはこれからどういうふうに改良していったらよいかといったような点をお話し願いたいんですが。灌水施設なんかどうでしょうか。

難波　やはり牧野には絶対灌水が必要ですね。実際にやっておりますと、牧野によりましていろいろな欠点が見出されるわけでございますが、やはりなんと云いましても灌水施設をどういうふうにしていくか、これが１番です。

蔵知　おたくのあたりも夏焼けしますか。

難波　水というものは非常に重要です。私たちも最近灌水してある草地を見まして、水をふんだんにやりますと肥料をやらなくても相当の草生ができますんですね。

蔵知　それから私たち考えてみますと、やはり草の品種ですね。これはもう少し検討しなければいけないんじゃないかと思うんですね。いままではいわゆる北欧型の草が入っていましたんですが、おたくの辺でいきますと多少南方型の例えばアメリカでやっています、コースタルバミューダグラスとか、ダリスグラスとか、バヒアーグラスとかいったかなり早魃に強い草がありますね、そういうものも混ぜて行くことによってイネ科牧草がもう少し強くなるんじゃないかというような気がするんです。

難波　やはり県中北のかなり急傾斜地帯ですから、１番早魃は恐ろしい問題ですから。

蔵知　もう１つぜひお願いしたいと思いますことは、今までの牧野改良といいますものは、全部剥がしてしまっているんですね、あれだと表土がダメになってしまう。むしろ私達は木の株が少し位残ってもいいじゃないか、全部起こしてしまわないで表土をなるべく残すようにしてやって行くというのが１つと、それから木を残すということですね、ある程度。

難波　最近私どもやってみましてつくづく感じましたのは、やはり今のようなことを考えました。

蔵知　それからおたくの辺で考えますと、私は栗と

かいったものがかなり入ってきてもいいんじゃないかと思うんですね。そうやって上の方では実をとり、下の方では牧草を取る。日蔭を作ることによって草の育ちもよくなるというふうなことをですね、あわせて考えていただきますと、牧野改良が伸びていくというふうに思います。

　岡山県におきましても、草の週間など長い日時をかけて草の運動をやっておりますが、私もこれは３年や５年でやれる問題だとは思っていません。難波さんのような方が立地条件のよいところにおられるんですから、今後とも充分草の運動には御協力いただきまして、皆さんの教育をお願いしたいと思うわけでございます。どうもありがとうございました。

難波　いやどうもお邪魔をいたしました。